令和３年度　学校評価　自己評価書

あま市立伊福小学校

１　総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。

【知】自ら学び、進んでやり通す児童

【徳】思いやりがあり、助け合う児童

【体】明るく、たくましい児童

(2) 本年度の重点努力目標

ア　確かな学力

- ユニバーサルデザインの視点による学習規律の確立
- ＩＣＴの活用と主体的な学びの工夫
- しっぴータイムの充実

イ　豊かな心と健やかな体

- 気持ちのよいあいさつ・返事の励行
- 心を合わせた合唱の充実
- 体幹を鍛える姿勢体幹体操の活用

ウ　働き方改革とコンプライアンス遵守

- 業務内容の精選・改善や職務の優先順位の見直し工夫
- 生きがいや働きがいを大切にしたタイムマネジメント力向上の工夫
- 風通しのよい温かい職場環境作り
- コンプライアンス面談や研修の推進

エ　コミュニティ・スクールの充実

- ホームページ等を活用した取組内容の周知
- 地域人材の積極的な活用

オ　安全教育の充実

- 見守り隊の充実と危機管理の徹底
- 校内環境の美化・整備

２　自己評価の実施体制

(1) 調査時期　令和４年１月１１日（火）～１月１８日（火）

(2) 調査項目　別紙アンケート参照

(3) 調査対象　有効回答者数／対象者数

児童３２４名／３２８名　保護者　２２０名／２５６名　教職員２１名／２１名

３　調査結果　別紙アンケート結果参照

４　考察【児童･保護者･教職員の総括的考察】

(1) 全体的には、ほとんどの項目で児童・保護者とも８０％以上が「よくあてはまる」「ややあてはまる」という肯定的な回答を得ることができた。しかし、コロナ禍で学校行事、授業参観が中止になり、特に保護者の参観する機会、授業に関する項目などについて８０％程度の肯定的な評価ではあるが、他と比較するとやや低い評価を受けた。

(2) 学校と家庭との連携については、コミュニティ・スクールとしての評価は、「よくあてはまる」が、２９．５％と低い。地域との連携の様子をホームページや学年通信でアピールしているものの、コミュニティ・スクールとしての活動であることをもっと分かりやすく伝えていきたい。

(3) 児童の生活については、ほとんどの児童が学級の中では友達と仲良く生活していると答えている。昨年度はコロナ禍で中止や縮小になった校外での活動（校外学習、林間学校、修学旅行）が今年度は計画通り実施でき、喜んで参加していると９６．４％の児童が回答した。挨拶については、校内

では朝だけでなく昼や夕方もよく教員とすれ違った際に気軽に交わしている。今後は、家庭や地域の方へも積極的に挨拶やお礼などの言葉がけをするよう指導していきたい。

(4) 授業については、少人数・ＴＴ授業や、ＩＣＴの活用について児童の評価が高い。ただし授業改善について、教職員の評価が低いのは、コロナ禍での授業を制限せざるをえなかった影響があると考えられる。保護者へも授業参観を通してもっとアピールする必要がある。次年度も一人一台端末の活用を進め、さらにＩＣＴ教育を充実させていきたい。

(5) 教職員による評価では、勤務時間の管理、業務の分担に課題が見られた。課題を洗い出し、必要な業務を適切な時間と職員で実行できるように改善を図りたい。一方で教育に熱心に取り組み、児童の相談にも丁寧に対応する職員への評価は高い方ではあるものの、一人一人に寄り添った対応も求められている。

５　成果と課題

《成果》

(1) 一人一人の先生方の丁寧で粘り強い日々の指導のおかげで多くの児童が学級での生活を楽しんでおり、友達関係も概ね良好なようである。今後も一人一人を大切にしたきめ細かな対応に心がけていきたい。

(2) 主体的・対話的で深い学びの授業改革は、コロナ禍で十分に展開できなかったが、ＩＣＴを活用した授業は児童から一定の評価を得ている。次年度も、ＩＣＴをさらに活用し、授業改革を進めていきたい。

(3) コロナ禍ではあったが、感染予防対策を取りながら保護者の理解を得て、校外学習、林間学校、修学旅行が実施できた。その結果、児童、保護者、教職員のいずれも満足度が高かった。今後も新しい流れを継続、発展させていくことが必要である。

(4) 児童の安全確保については、見守り隊やＰＴＡ、コミュニティと連携して対応していることが、高く評価された。清掃状況については、老朽化が進む校舎ではあるものの、保護者からは概ね良いとの評価をいただいた。

《課題》

(1) コロナ禍で参観行事が中止となり、参観する機会が減少し、他の項目と比較すると授業に関する評価が低迷した。児童の肯定的な評価は、８８．２％であることから、感染予防対策をとりながら、参観の機会を確保し、保護者の理解が進むようにしたい。

(2) 交通マナーは児童の自己評価より、教職員の危機意識の方が高かった。交通ルールを守れていると考えている児童は、９４．５％であるが、教職員の視点で見ると不十分な面がある。日頃から児童の安全指導を進めるとともに、下校後の自転車の乗り方等の啓発も行っていきたい。

(3) 挨拶については、登校時に通学団団長、副団長を中心に元気に挨拶をしている。児童会が挨拶運動に取り組んだこともあり、改善の兆しがある。今後は、家庭や地域の方へも積極的に挨拶やお礼などの言葉がけをするよう指導していきたい。

６　改善策

(1) 感染予防対策をとりながら、学校行事を工夫し、参観する機会を設定する。

(2) 日頃の登下校から、下校後・休日の過ごし方も含めて児童の交通マナー向上を図る。

(3) 校内での挨拶の習慣をさらに発展させ、児童が地域でも挨拶できるように働きかける。